



研究主任（道徳教育推進教師）

1月は『行く（いぬる）』、2月は『逃げる』、3月は『去る』とはよく言ったものです。もうすでに1月は終わります。毎日を大切に送りたいものですね。

さて、閉校記念行事やとんどが地域の方や保護者の協力を得て無事終わりました。このような行事の中にも、「みんなのために行動して下さる方に感謝すること」「学校を地域をすてきなところだなあとおもう気持ちを持たせること」など様々な道徳的価値を見出すことができます。意識させ（気づかせ）て思いを持たせていくことが、私たち教師の役目なのではないかと思えます。

今回の通信は、道徳教育1月号から、「思いやり」について書かれたものを紹介してみました。参考にさせていただければと思います。

道徳教育1月号から

2重線 筆者

「思いやり」を考える

- ★沖縄県→困っている人や苦しんでいる人に対して『チムグルサン』という言葉を用いる。直訳すると、「心が苦しい」「心が痛い」という意味である。困っている相手に対して、哀れみや優位ではなく、常に同じ心の痛みを感じ、その心を相手に伝えている。「かわいそう」にあたる方言はあまり聞かない。他者と痛みを共有するところに「思いやり」の原点を見る思いである。
- ★「思いやり」の心をはぐくむには、他者の気持ち、状況や、立場を想像すること、推測することが土台として存在するのかもしれない。

低学年での思いやり

現行の学習指導要領解説

「幼い人は高齢者など身近にいる人に温かい心で接し、親切にする。」
⇒幼い人や高齢者といった特定の人だけでなく、その他にも困っている人など、身近にいる様々な人々に思いやりの心や親切な行為を広げられるようにしている。また、親切な行為まで求められている。
道徳の時間にはぐくんだ道徳的実践力を、事前や事後の教育活動における道徳教育と
かかわらせながら道徳的実践ができる児童の育成をはかる。

中学年での思いやり

現行の学習指導要領解説

「相手の状況、困っていること、大変な思いをしていることなど想像することによって・・・以下略」

⇒思いやりを必要と感じ始める中学年だからこそ、相手の立場に立って考えることの大切さをより自覚させながら思いやりの心を育てることが一層重要。

様々な人の生き方を疑似体験しながらはぐくまれた道徳的実践力を礎に、自分のこれからの在り方・生き方についても想像を膨らませることで、親切な行為を進んで行うことができる児童の育成が可能となる。

高学年での思いやり

相手の立場に立つ大切さの理解をより深め、それが、相手と自分との関係や属する集団における仲間とのかかわりを豊かなものにすることを十分に考えさせていくことが大切。

現行の学習指導要領解説

「人間関係の深さの違いや意見の相違などを乗り越え、思いやりの心とそれが伴った行為を児童が接する全ての人に広げていく指導も大切である。」

⇒友だちの様々な考えと自分の考えを比べたり深めたりする話し合いの充実が価値の理解を深め、人間理解・他者理解へとつながる。

授業での振り返り、思うように出させていますか？

振り返りについては、2学期の反省で出ましたね。どのように自分の授業を工夫していますか？進展はありますか？

互いに道徳の時間を交流して、良い点や改善点を見つけ合うのもよいですね。新しい発見があるかもしれません。

